

近赤外用光ガイド

1995年（平成7）、フッ化物ファイバを用いた、ファイバケーブル、ファイババンドル等の近赤外用光ガイド製品を開発し、現在に至るまで製品として販売されている。これらの製品は、光ファイバの低損失化のみならず、機械強度の向上、ファイバパラメータの最適化、ファイバ Damage threshold の大幅な改善等により可能となり、現在、分光分析装置の光ガイドをはじめとし、近赤外領域での化学センシング用途に幅広く用いられている。

出典：KDD 社史